

岐阜市で発生した豚コレラ 続報 中国のアフリカ豚コレラも発生続く

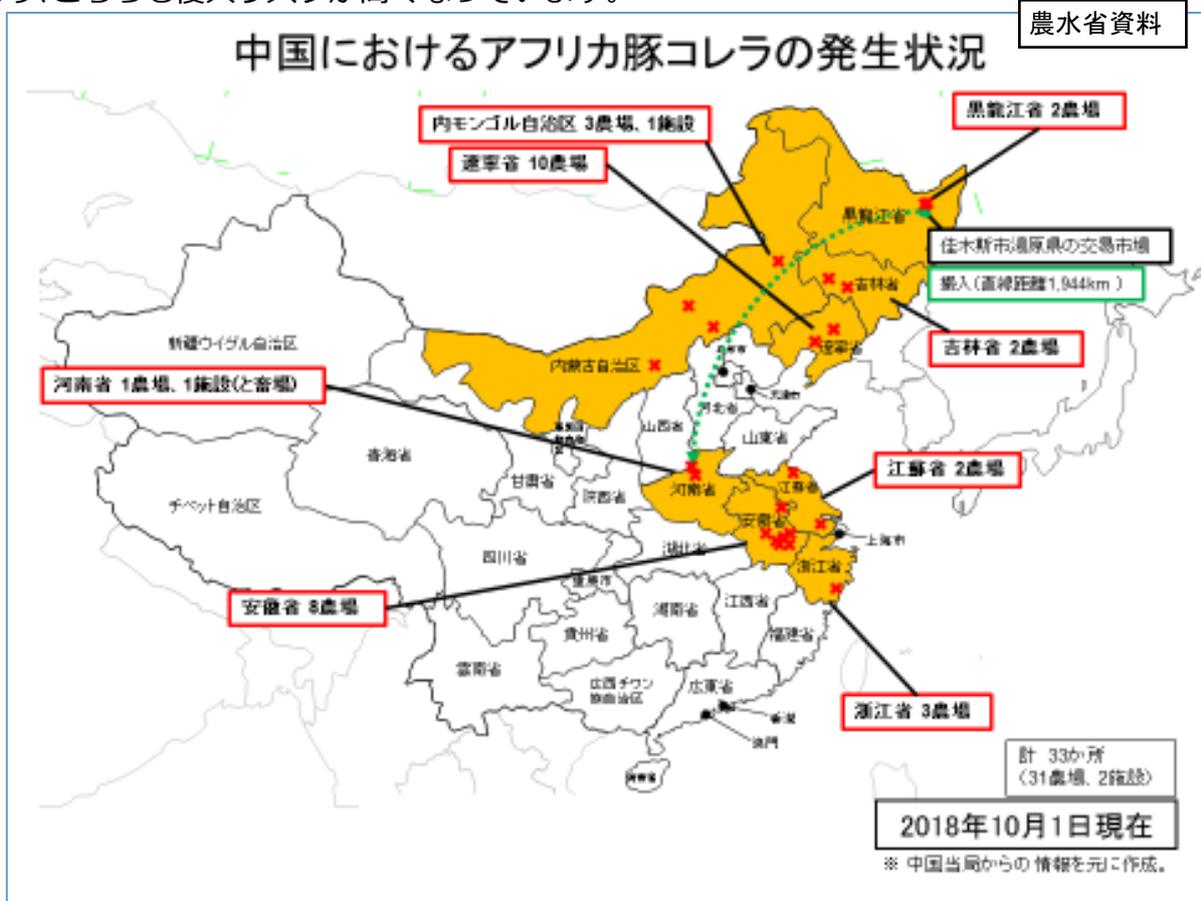
9/9に発生した岐阜市の豚コレラは、疫学関連農場の清浄性が確認され、続発もなく、搬出制限区域は9/29(土)0時に解除されました。が、発生農場や利用していた共同堆肥場周辺で9/14から10/7までに野生いのしし18例からウイルスが検出されており、引き続き警戒が必要です。

なお、岐阜県以外においても野生いのししの検査が行われており、10/4 20時の時点で29県(長野県含む)で61頭が検査され、全て陰性となっています。

「過去の病気」になっていた豚コレラ、改めてその特徴を復習すると・・・

- ★原因は豚コレラウイルス(感受性動物は豚、イノシシ。人には感染しない)
- ★主に口と鼻から感染し、年齢等にかかわらず全ての豚で発生(症状は多岐にわたる)
- ★潜伏期間は一般に2~6日が多く、感染豚は唾液、涙、糞尿中に多量のウイルスを排泄する
- ★発症から死亡までの日数により、急性型(10~20日)、亜急性型(21~30日)、慢性型(30日程度)がある。
- ★急性型では、発熱(41~42℃)、元気消失、食欲減退等を示し、沈うつとなって豚房の方隅に重なり合って寝転んだり物憂げにたたずむ
- ★発熱と同時に便秘傾向となり兎糞状の硬い便を排泄、発病後期には黄~黄褐色の粘液性便となる
- ★結膜炎が認められ、病気が進むと、運動失調、後躯の萎弱→歩行困難、神経症状、奇声
- ★耳翼や下腹部、四肢の血行障害による紫斑→死亡(致死率は極めて高い)
- ★慢性型は初期には急性型と同様の症状を呈し、その後一時的に軽減するが消瘦しヒネ豚となる
- ★ワクチンはあるが、現在、日本では、清浄化の維持のため、ワクチンを使わない防疫体制をとっている(緊急時には必要に応じて使用)

一方、中国でのアフリカ豚コレラの発生は収まらず、7省1区33カ所(31農場、2施設)に上っており、こちらも侵入リスクが高くなっています。



侵入防止対策（対策は豚コレラ・アフリカ豚コレラ両方同じです）

下図にポイントをお示しましたが、岐阜でのイノシシでのウイルス検出を踏まえ、特にイノシシ対策には注意をお願いします。

農水省資料

予防対策の重要ポイント



①人・物・車両によるウイルスの持込み防止

- ・衛生管理区域、豚舎への出入りの洗浄・消毒の徹底
- ・衛生管理区域専用の衣服、靴の設置と使用の徹底
- ・人・物の出入りの記録
- ・飼料に肉を含み、又は含む可能性があるときは、あらかじめ
摂氏70度・30分間以上又は摂氏80度・3分間以上の加熱処理を徹底

②野生動物対策

- ・飼料保管場所等へのねずみ等の野生動物の排せつ物等の混入防止
- ・豚舎周囲の清掃、整理・整頓
- ・死亡家畜の処理までの間、野生動物に荒らされないよう適切に保管

★海外からの侵入防止対策にも万全を！！

今回発生農場で検出されたウイルス遺伝子の解析の結果、過去国内で検出されたウイルスとは違っており、海外から侵入した可能性が高いということです。海外との往来、持込にも改めて警戒が必要です。

★発生国から豚肉や肉製品を国内に持ち込まない・持ち込ませない。

★発生国との往来は避ける。

☆やむを得ず往来する場合・・・

- ・発生国では家畜の飼養場所、家畜市場等の畜産関連施設へは近づかない
- ・関連施設へ立入ったり、豚等(の肉)と接触した場合は、帰国時に動物検疫所のカウンターに立寄る

異常が認められた場合は 0267-62-4123 へ！（夜間・休日も対応）

今回の岐阜の事例では異常の通報の遅れが指摘されています。異常を発見した場合は直ちにかかりつけの獣医さんまたは家畜保健衛生所に連絡をお願いします。